夕刊 磐城新聞
十二月二十八日發行
定價 一部金五錢 一ヶ月金六拾五錢(郵稅拾五錢) 廣告料 [illegible]
發行所 磐城新聞社
(日曜祭日翌日休刊)

現代の青年は須く眞劍なれ (二)

(十二月二十四日夜於好間村補習學校)

前松佐嘉

併しこれ程の強い決心がどうして觀客の心に映らずに居りませう、萬感を胸に秘めつゝ今ぞ最後と刄を拔き放つたとき滿場の觀客は覺えず眞に打たれて、やんや〜の喝采を浴せ劇場は割れるばかりであつたと云ふことであります。これは眞劍味の有つ味はひが永遠に人間の魂を感動さすからであります

人は眞面目で眞劍なほど確かなことはありません、ほんとうの自信、ほんとうの落着き、ほんとうの勇氣ほんとうの誠意は皆この眞劍味から生れるのであります

彼の爆彈三勇士の壯烈なる態度あれが技巧や、はからひや思慮分別や學識で出來たとは誰も思ひますまい申すまでもなく只一つの眞劍味があつたからであります、鬼神をも泣かしむる至誠盡忠の行爲は己の眞劍味が生んだのであります。斯樣に考へて見ると世の中に眞劍な力ほど恐ろしいものはありません

歌道革新の祖と稱へられた香川景樹先生に或人が如何にすれば歌の名人になれませうかと問ふたら、先生は言下に『おのが命をもつて換へるの覺悟さへあれば上達すると疑ひなし』と答へられたと言ふことであります。此の端的な眞に迫つた言葉は先生の眞劍なる体驗から生れたことを忘れてはなりません、先生は若い時京都にあつて貧困のために按摩導引をなし、或時は六道論の經木を書き、或時は公家侍などして、わづかに口すぎをして居られたのであります。先生の借家主がこれを憐んで一時の窮を淩がせん爲に錢若干を貢すと先生は深謝した、市中に往つたら定めし米鹽の類を買つて來るであらうと思ひのほか、短冊を買つて來て心靜かに和歌を寫して居つたとのことであります。獨り歌道ばかりでなく、あらゆる事業の完成はこの意氣この眞劍味によつて得らるゝのであります

徳川時代の儒者で有名な荻生徂徠先生についても次のやうな物語が傳へられて居ります。彼ははじめ伊藤仁齋先生について書を學んだのでありますが、生れつき愚鈍で學業をとげることが出來ず失望の極、入水して自殺しようと思ひ或日のこと堀川のあたりを彷ふてゐた時、はからずも仁齋先生に見つけられ何故に死なうとするのかと聞かれ、徂徠は自分が家を出るとき學も成らずんば死すとも歸るなと父から言ひわたされ自分もその覺悟でゐたが生れつき愚鈍なために初一念の貫徹が出來ず、生きて家名を汚し父母を辱しめんよりはいつそ死んだ方がましだと思つて、かうしてゐるのであると答へた

轉換期の都市 (四)

中野時雄

明治開化の第一線にとつた重工主義は、それは當然のものであつたかも知れない、其國是の上に立つて鎖國日本は世界三大强國にまで發展した、重工主義が持つ幾多の欠點はあるとしてもこの對外的急速所成を可能ならしめた重工重商主義の持つた價値は認めなければならぬ。それは現在の日本として我々の生活を甦活させる事實だからである

三

鎖國日本が急速に世界資本主義に追付く爲には、重工商主義が必要であつたしそれが又當を得たものであつたらう。然るに六十年の歳月は完全にその使命を果して、遂に夫自身が持つ內在的矛盾の爲にのた打ち廻つてゐる

敎育も亦その轍を踏まないではゐられなかつた。重工商主義の敎育は都市中心となり、全日本の凡ゆる分野に向つて、都市中心主義的敎育の徹底的努力を拂つて來た。そしてその効は今や全く現れ、都市的文化の移入には成功の域に達したと言つて過言ではない

近代都市の大膨張 從つて、悲慘な農村のアバラ骨が現れ出すと、都市も亦体醸成されるウジをどうする事も出來なかつた。浮薄な重心のない口と頭ばかりの、そして肺患者の樣に蒼ざめた彼等はギラ〜と物凄い眼光に絶望を宿し、ナカ〜痛い程の神經に疲れ切つた。其處には落つきがなく、愛と重厚の溫さがなく、冷たい鐵とコンクリートの化石の樣なものが出來上り、自己の利益と發散の爲には、凡ゆる感情を犧牲にして省みない所謂都市の消費性が、爛熟して來た

都市は都市自身を最高の存在とし農村は農村を侮蔑して來た。相互依存の關係を全く失ひ、如何にして兩者が他を搾取し得るかの闘爭裡に推移し來たつて初めて兩者は自己の正しき再認識の必要に迫られて來た

都市のルンペン性は遂に鄕土を失つて仕舞つた。此處に鄕土敎育の農村よりも都市に重大なる問題となつて提出される、皮肉な現象が表はれる

潮聲硯靜抄帳

席題(松ケ岡公園 秋の風物)五句吟

水音きく櫻落葉の朝じめり　石城
一時に木々あかねしつひわ高音
夕映えて櫻紅葉の松ケ岡　長貴
銅像の眞上に澄める後の月
冷やゝかや雨の中なる忠魂碑　香村子
朝寒の公園通り出勤す
古社銀杏に老いて黄葉せり　茂堂
草の實の紅きをつんで見たりけり
放たれし絃音高し秋の空　枯萍
寂として櫻紅葉の松ケ岡　花堂

眞夜中の舗道

土屋龍二

眠つた空氣はジッとして
動かぬ
街燈は不眠症の眼を見開いてる
自動車は前のめりになつて晝の落し物を探してる

深夜の感覺

冷却した鋭角
奇數とイ列音
カフエーのジャズは硝子箱の中で永久に
旋回を續ける
私は逆立した圓錐形の頂上に立つ
蒼白の夢にバラの花は訪れやしない

憂鬱

クリストの荊冠のやうな
不快な塊が胸のあたりに
くすぶつてる

新刊紹介

△兒童と家庭新年號 題號に副ひたる記事滿載、教育、文藝欄中地方關係のものに島田忠夫氏の『ある兒童の日記』『童謠猪狩り』等がある(東京市下谷區上野櫻木町九其社)

12月29日 △グラッドストン生る(一、八〇九)△ガンベッタ死す(一、八八二)△旅順艦隊に出動命令下る(昭和六)△比島獨立案米下院通過す△多門部隊の先發隊奉天出發凱旋の途につく(同七)△皇太子殿下御命名の御儀執り行はせらる△商工省の製鐵合同に對する折衝は形勢好轉、八社中六社に假契約成立△ルーマニア首相イヨン・デューカ氏暗殺さる(同八)

12月30日 △英文豪キプリング生る(一、八六五)△張學良錦州軍の關內撤退を命令す(昭和六)△新聞界の巨星本山彥一氏逝く(同七)△滿洲國の重大國策準備委員會成る(同八)

12月31日 △初代尾上菊五郎歿す(天明三)△德川慶喜大臣を辭す(明治六)△松樹山砲臺占領(同三七)△インド政府初年度綿布數量に關し日本案の百五十萬俵、四億ヤードを條件附で承認(昭和八)

社會の今日

○

年の瀨のいそがしながら書初の、下稽古する姪を見てやる　橘宗利

何時か來る幸を笑ひつ大晦日　左立

講談 戸隱奇譚 山の怪秘 (75)

丸山寛雄作　眞木浪畵

ちやら銀騷動(四)

『御主人、御怪我は淺い確つかりなされい』

平七郎が駈けつけたので安心したものか、伊左衞門は肩口に手をあてたまゝべつたりとくず折れた

、平七郎は拔身を置いて抱起す

『駄目ぢや、わしは駄目ぢや……刈馬樣、お願ひぢや娘お豐が奧にゐる……あれを……あれを……お助け願ひ……たい』

伊左衞門、老体の上に相當深い手傷である。平七郎はそのだくだくと流れ出る血潮を見て、駄目とは見てとつたが、このまゝ此の場に捨て置くわけに行かない

『宜しい、お豐どのを引受けた。では、こゝにゐる方々、御主人を一刻も早く穴藏へおかくまひなさい』

云ふや否や、平七郎奧庭目がけて駈け込む

母屋を突き拔けて裏庭へ行つて見ると驚いた、今し三番の酒庫に火がついたところだ。どうやら屋根を燃え拔けて、他の酒庫もなめかけてゐるではないか

平七郎瞬時にして打つて變つたこの修羅場に、あつけに取られてゐるうち足許につまづいてよろめいた。下を見れば、咽喉笛を斬られたか一人の丁稚、無殘にも仰向けに倒れ、その上には重なつて墓蛙のやうな格好の手代、背中を突かれて打伏してゐる

これは遲かつた

それでも平七郎、刄を擬して焔の光に映し出される一揆の者共を狙つたが既に吉田屋一家を斬り盡したか、それらしい影が見えぬ

その眼尻を決した瞳へはハラハラと火の子が落ちる

これは逃げられたかな

ふり向けば母屋の棟も既に、バリバリと燃え盛つてゐる

吉田屋も沒落だな!

平七郎の頭に不圖こんな事がひらめく

そのうちに火が風を呼んだものであらう、紅蓮の焔は一段と大空高く卷き上つた。まるで天から落ちた唐獅子が血に染まつて狂ひ廻るやうだ。血牡丹の花園のやうだ

『おゝ刈馬樣、早くお出で下さい、今帳場のあたりから奴等が千兩箱を擔ぎ出してゐます、早く行つておくなさい』

『なにッ、奴等が千兩箱をかつぎ出してゐる。よし行かう』

平七郎、それと聞くよりまつしぐらに駈け出さんとするのを

『待つた、刈馬樣。あそこはまだ黑煙がもう〜と立つてゐます。萬一煙に捲かれちや仕事は出來ません。私のこの手拭を水に浸して冠つてお入んなさい』

『ふむ煙だな。手拭は白くて目立つ拙者の袖がいゝ、それ行けッ』

ビリ!

平七郎は片袖を千切りとつて、ざぶりと池水に浸し手早く絞つて覆面にした

燒け落ちて、しかとは判らぬが、母屋の裏庭、沓脫石と思ふあたり、一旦火を避くべく運び出された千兩箱が、ごろ〜轉がつてゐる。それを百姓姿の一揆の者共が一つ一つ肩に擔いだり、抱いたりして横門へ運んでゐるではないか

四邊を見廻した平七郎は苔蒸した石燈籠の蔭に身を潛めて、千兩箱を運び出す蟻の行列を待つた

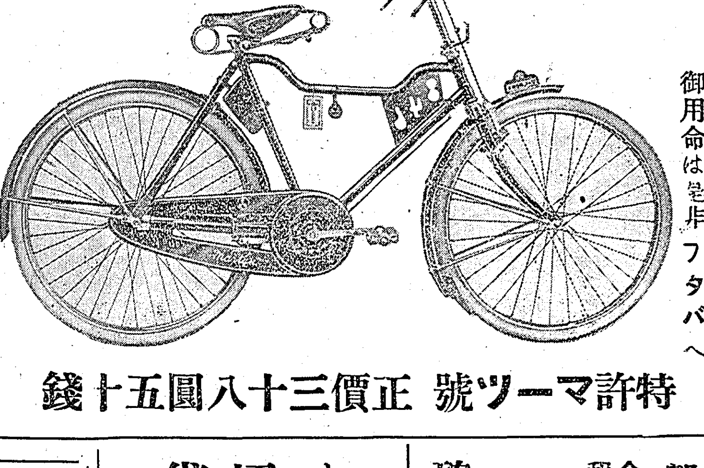
一人一人斬り倒すには絕好の位置だ

廣告

平南町 川井內科診療所 電二四三

株式賣買、債權取立 合資會社 三共商事 平町大町電三六〇

最新型多數入荷 御用命は是非フタバへ



特許マーツー號 正價三十八圓五十錢

フタバ商會 平。新川町。月見橋際 電話三〇一番

開店三週年記念 景品付大賣出し
自十二月二十三日ヨリ 至一月三日マデ
特價品(マツダ眞空管ヲ價ノ一割五分引、タングステン電球五十燭マデ拾錢 其ノ他電氣具各種)
古山電氣商會 平町警察署通り(呼電一一六六)

開業 專門 耳鼻咽喉科 診療開始
(入院應需 自炊ノ便アリ)
高柳耳鼻咽喉科醫院 平町驛前(電三三六)
醫學博士 高柳博明

診療科目
一、齒科一般 保存科、補綴科、繼續架工科、齒列矯正科、小兒齒科、齒槽膿漏科
一、口腔外科
一、レントゲン科
中野齒科醫院 院長 日本齒科醫學士 中野悳次 日本齒科醫學士 西川誠
平町田町(松月堂向ヒ) 電話五〇九番

自轉車ノ月賦販賣 御通知次第御伺ヒ致シマス。
エビスヤ自轉車店 平町南町 電六六四

良品廉賣に勝る商略なし
磐城セメント特約代理店 金物問屋 和洋銅物 久 釜屋商店
磐城國平町五丁目 電話九番 九九番 振替貯金口座東京一〇九五六番
確實敏捷は久の生命なり

專門優良車 乘心地の超特快適な三四年型デラックスセダン着
貸切り 何卒御用命願ひます
平町四丁目 鈴木自動車部 電話二一七番

お醬油は……ヤマフル
味噌 醬油 たひら正宗 鰹節 食料品
鹽屋 山崎合名會社 福島縣平町 電話(營業部一〇番 本店二七番)
明治生命磐城代理店 山崎與三郎

銘木ト建築木材ノ御用命ハ今一番勉强スル當店へ
內外銘木 建築材一式 便利瓦
織田材木商店 平町紺屋町 電話四六〇番
櫃優良材碁將棋盤アリ格安讓リタシ。

吸入用酸素 純度99%
度量衡 モノサシ マス ハカリ 體溫計 寒暖計
◎秤ノ取[illegible]・緒・垂・糸・修[illegible]致シマス
開內藥局 電話四〇番

產婦人科 外科 藥局
院長 木村寅次郎 醫學博士 內木宗八 藥劑師 玄番彌一
入院隨意 病室完備 平町新川町十九番地 木村病院 電話一六四番

自發＝要求＝調停等 地主と小作人の握手
＝縣下の大勢に順應して＝ 本郡でも成績頗る良好

凶作減免

縣特高課では本年の凶作を原因とする小作爭議は出來得る限り之を事前に調停し合理的協定に導き極力紛爭を防ぎ凶作地の治安確保を期するため各市町村單位に小作紛議防止委員會を設置し市町村長、警察署長、農業技術員等を委員として協力斡旋せしめ關係各方面の活動を促してゐたが其成績相當見るべきものあり、同課最近の調査による小作料減免地主數は縣下全地主の六割二分の多きに達して居る、これを本郡の水稻作付總反別九一五七町四反歩（平年作に對する水稻減率〇、二四）地主數二、〇四四人、小作人數六、一五五人に就いて見た成績は契約通り小作料を納入した反別二、二三六町七反四畝歩（關係地主一〇九七名、小作人三、〇八一名）の外左の如く地主が自發的に減免率を決定したのは理解ある温情地主の在住する地方をはじめ凶作の程度深刻なる地方及び養蠶主業地等で小作人側の申出のまゝ減免協定の成立したのは主として凶作の程度甚しい地であり、契約小作料をそのまゝ納入したのは凶作程度が輕微で減收三割未滿の地方に限られ減收率三割乃至五割程度の地方及び一部無理解な頑迷地主の在住する土地では殆んと紛議防止委員の斡旋によつて解決してゐる

（備考一―全は一割より全額減を示す以下之に準ず）

	地主	小作人	反別	減率
◇地主が自發的の小作料減額	三一	一七〇	一二九	一―全
◇小作人要求の減額協定成立	五九	一四七	八六	〇、二―五
◇村長、農會等斡旋の協定成立	八	一六四	四八	一、五―二
◇警察署長斡旋協定	八六	三三	一四	一―五

小川江護岸及暗渠竣功

小川江筋第二期工事である下小川村丸山地內延長四百五十米、上平窪上仁井田眞根井間約七百米の暗渠、護岸鋪裝工事は平町堀江工業所の材料供給の下に去る十月一日着手したが何れも此程竣功した

昇給賞與に笑む
何處を見ても朗かな 御用納め點景

各官廳は愈々今日を以て今年も大詰めなので過去一年間の淸算に慌しい空氣が漲つてゐた、平署では午前中一齊にボーナス袋定期昇給辭令を渡したし、町役場でも一名の昇格の外殆と總花的の昇給辭令を手にして何れも朗かな面持にあつた

受理數首位
今年の平檢事局

本檢事局の本年一月以降今二十八日御用納めに至る總受理件數は內譯左の如く二千八十五件で昨年同期に比し四百二十九件、一日平均一・一七件の增加を示してをり昨年宮城控訴院管內最多の二千二十九（仙臺）を凌ぐこと五十六件で今年の第一位を占るものと觀てゐる（括弧內は昨年）

平署二、〇一七（八九八）四倉一二〇（四一）植田一六八（一二〇）浪江二二〇（一三二）富岡一六〇（一五三）小野新町一〇（八）その他三九〇（二〇四）

鑛業界の活況に 減區、廢業が少い
例年に無い納期前後

鑛區稅は十二月に翌年分を納入することになつてをり鑛業界不況時には十二月において減區ならびに廢業屆出が相當數に上るのであるが本年はこの傾向頗る稀薄となつてゐる、即ち仙臺鑛山監督局調査による管內東北六縣下の狀況を見るに例年なら減區、廢業が相當の數に纏まつて窓口に殺到、百餘件にも達するが本年はボツリ／＼と出て約二十件といふ閑散ぶりである、これは炭界の活況に刺戟されて一度得た權利は如何なり遣り繰り算段をしても手放すまいとするなど鑛業界が活況を呈しつゝあることを示すものと見られ、これと共に探鑛も更に活潑に繼續されてゐることを豫想される

酷使に耐えて 平署へ泣き込む
可憐な植田の仕込っ娘

今廿八日午前九時頃平署に救ひを求めた藝妓風の女。右は平町鎌田町草野染物工場裏まつゐ（四二）三女中口アサ（一五）で幼にして父親を失つたので健氣にも兄妹五人を養ふべく一昨年十一月前借五十圓で植田町藝妓置屋小柳事柳チヨノ（三三）方へ藝妓見習ひに住み込んだが食事迄限られ、尚最近では無鑑札に客引きを强ひ病氣で休むと益々つらく當ると云ふ酷使振りで、前借も知らぬ間に八百圓に嵩んだのに吃驚し目下夏井川匡救工事に出で辛じて生活してゐる母を慕ひ今廿八日早朝同家を脫け出して來たものと判明、同署では直に實狀調査に着手した

慈善鍋へ十數圓
同情者は女學生が第一 卅圓を目指す町の救世軍

歲末の夜風に顫え乍ら年を送らうとする氣の毒な人々に餅や米を配る爲に去る十八日から驛前、銀行角の二ケ所に設けた救世軍平小隊の社會鍋には

十八日三六錢　十九日一圓一〇錢　二十日七〇　二十一日一、八八　二十二日一、二八　二十三日九〇　二十四日三、二二　二十五日四二　二十六日二、五〇　二十七日一、八〇

計十四圓十六錢が入つたが同小隊では語る

未だ日もあるので昨年の十六圓よりは多くなると思ひます。クリスマスのため思ふ樣に奮鬪出來なかつたけど鍋を置いただけでは矢張り駄目なので今日からは晝、夜街頭に進出して皆さんに御呼び掛け少くとも卅圓位を得度いと思ひます。女學生が最も多く汽車から降りた人の入れてくれないのは意外です。云々

鰯豊漁續く
小名濱町賑ふ

小名濱町の昨今は一般一日の水揚高約二千圓と言ふ鰯の豐漁で賑はつて居るが加工品としてミリン乾し其他石鹸製造の原料油としてドシ／＼東京移出を試みられ、小學生達も夜間十時頃迄移出向の鰯編みをやり一日四五十錢位の手間賃を得て大喜びである

一人宛約廿貫
元旦の郵便配達

平局に於ける來元旦の配達郵便數は年賀狀に通常郵便物を加へ三十萬を突破する豫想なので市內十人市外十六人を動員するが市內は一人約二十貫を受持つので午前六時局出發、市內は午後三時、市外は同八時頃までかゝるのでこの出發に先ち君が代合唱、局長の激勵訓辭、萬歲三唱をし居殘を振舞つて世の正月の他所にしての劇勞を勞ふと

電話激增
◇昨今の平局

年の瀨迫る昨今平局電話は一日平均市內呼數一二、五〇〇（普通一萬內外）市外呼數二、一二六（普通千內外）市外二倍以上、東京三倍以上の激增を示し、之に中繼など併せ瞬時の暇も無き程で尙益々增加するものと見られるので交換手の增員休憩時間を計り極力之が繁忙に備へて居る

比翼連理に 冷灰の親達の同情
鹿島心中の佛前結婚

既報―お互の薄倖から結びついては見たものゝ望み無い行末をはかなみ去る二十三日鹿島村走熊地內山林で服毒心中を遂げた同村大字走熊字山の神三二箱崎惣一（二五）同宮下一二八久雄長女箱崎はる（三七）兩名の死体は平町で茶毘に附したが生前の相思に同情した兩家では一昨二十六日同村會議員箱崎弘之氏の媒酌により花婿宅に於て『髑髏の結婚式』を擧げ合葬した

山の中で 亭主を撒く
笑へぬ凶作軟尖

山形縣東村山郡山寺村農鈴木武雄（三八）佐藤チヨ（三三）の兩名は一昨七年結婚、凶作から去る三月來郡小名濱榮港土木下請負業延松飯場に入り働いてゐたが去る二十四日同工事場をやめ昨廿七日午後十時頃打連れて內鄕村地內山林內を通行中チヨは他に男でも出來たのか武雄の道不案內を幸ひとして突然行方を晦したので武雄から早速平署に捜索方を願ひ出た

籠脫けの夜鶯
二人共東京の實家に潛伏 發見
抱主久本ホッとする

昨報―前借大枚千圓の身で住み込み早々出奔した平町新田町藝妓置屋久本事大久保ヨシさん方抱藝妓久菊事山形縣東村山郡山寺村農谷村貞子（一八）同久松事西尾さだ（一七）の兩名は昨二十七日午後一時頃久菊は東京市豐島區西巢鴨町、久松は同神田區大和町の實家に潛伏中を發見された

鄕土の史的時事解說（二）
白水阿彌陀堂の第二回修理
本堂宇の特別保護建造物並に內壇安置三佛像國寶各指定に就て（七）

勿來生

大体尼成衡夫妻は當時奥羽一の豪族なる淸原直衡に養子となつて入つたのであるから、出羽と陸奥の平泉地方には自づから關係があつたのは申すまでもなく、其の養父が後三年役の最中出羽を攻める途で頓死した後は淸原家も自づから滅亡したので、成衡夫婦は養家を離れて獨立したのは確かであつた。然るに此の頃既に藤原淸衡は義家の家來になり、一族を滅ぼして一人り漁夫の利を占めるに至り其の後淸衡が成衡夫婦との由緣りは明白でないが、恐らくは義家の吩咐で二人りの後見役となつたかも知れぬ。それを諸書では德尼を淸衡の女とか、妹とか、或は養女、若しくは其の孫秀衡の妹などゝ諸說し、其の實彼の尼は岩城には移らず平泉（衣川館か）か出羽かにばかり居り、平素至つて信心の篤い人であつたと傳へる。或は又彼の女は行方郡牛越村に釋迦堂を、標葉郡丈六山に阿彌陀堂と釋迦堂、岩城郡白水村に阿彌陀堂を建て、自分は本郡御墓境村に居り、又別莊は菊多郡瀧尻村內に置き、其の地を泉と名づけたなどゝ限りなく附會される

右の內後者から考へると行方、標葉、岩城、菊多郡の儀堂、並に居村關係は、後世の德尼、詰り二代か三代の德尼でなかつたかと想到されぬでもない。從つて賴朝が藤原四代泰衡を征伐せし當時の岩城氏は初めの成衡から見ると二三代目で此の人も成衡、隆行などゝ啓いたと思はれよう、けれども東鏡や飯野及び國魂文書類で察するに文治頃の岩城總領は淸隆、師隆父子の內であつたやうである

兎に角最初の成衡、德姫は各自常陸より奥州かに、夫れより出羽に、次ぎは再び奥州かに轉々したのは事實であつた。そして成衡の少年時代は父安忠と共に岩城郡に甚だ關係し（或は成衡は岩城郡で生れたかも知れぬ）德姫は實の伯父なる常陸筑波郡の多氣權守宗基の許から後ち奥州の亘理郡の亘理權守淸衡（後ちの藤原淸衡）であるが、或は其の父經淸の誤傳か、此の經淸は前九年役の時、賴義に誅された）に移り、成衡が淸原家に入婿した後に、彼の女は其の嫁として淸衡が誰れかの許に居つた所から貰はれて行つたのであらう

昭和九年を顧る
その十二

（十二月一日）列車時刻改正、山間村死兒續出憂慮さる、平地方痲疹猖獗（二日）磐炭鑛動搖、植田町長等石川行省營バス上京陳情、本社短歌會（四日）鐘紡誘致に平商工會起つ、平の風致地區報告、小名濱町議補戰、太田徹夫死金融疑獄解消（五日）藤原義江獨唱會勿來關本町村鑑縣編入運動（七日）植田招魂祭、郡產業部會で貧弱信組の爲縣當局の保證を陳情（八日）平齊年團總會で大嶺氏團長に、（九日）水產會總會、敎員籠球平第二捷つ（十日）玉川村坂本千代（四〇）窮乏のため實兄夫婦を訴ふ、湯本の三塚時之助（三三）料亭で傷害沙汰（十一日）鮪探漁に磐城丸出動、金十圓で身賣の娘平署に救はる、平の要救極貧九十四戶、白水で幼女轢死（十二日）改正選擧運動取締法で濱三郡に事務所一つ、山火事（十七日）自動車業者道路負擔金反對、大濱の四倉から鰯加工品大量會津へ（十八日）渡戶の消防組內紛表面化、郡下桑園關係者改良協議、久の濱鐵路側に虫の息の醉漢久野一（二七）、箕輪山中に白骨、素見歸の七人組平第三前で暴行（十九日）本庄平刑務所長滿洲へ、水鐵で平を中心のガソリンカー計劃、米公定價決定（廿日）回春園の患者に御下賜品傳達式、江名漁組海產同業合同總會、深更平署の歲末警戒想定演習（廿一日）政府拂下米郡下に四千廿八俵、鐘紡誘致は當分日和見、郡第三方部女靑總會（廿二日）平職紹連絡町村打合會、高久一家亂鬪罰金で凫（廿三日）玉川對入山の灌漑紛紜鈴木代議士等の斡旋で圓滿解決、翹望の植田―田人線縣會で縣編入決定、鹿島で悲戀心中、犯罪豫防週間始る（廿四日）勿來座全燒、勿來海岸で中村の女學生縊死、平署の刑事展始る（廿五日）小川の隧道で久ノ濱の白痴少年轢死、平の紅裕運銀紙蒐集に乘出す（廿六日）平驛前新道鋪裝陳情、平最終町會

水害豫防組舊債償還協議、平立町の老爺倅に傷けられ淚の訴（十二日）愛婦平支部救凶品募集協議、小玉川發電所工事人夫斷込訴へ、藤原で湯本の乘合見を轢く（十四日）平窯商組總會で產商統制法反對表明、義士討入記念日（十五日）小玉川監獄部屋事件落着、危機の農村婦女に各方面から救の手、平局遞送手箕輪で遭難筆劔忘年會（十六日）內鄕在軍齊訓發火演習、勿來で

◇…………◇…………

喜多流初謠會

平喜多稽古會では來一月六日午前十時からマルトモホールに於て本町同宗家より伊藤千六氏を招き謠始めを催すが曲目左の如し

池邊鶴、老松、安宅、卷絹、成陽宮、鞍馬天狗其他仕舞

本號を以て今年の最終刊とす

夏井の火事
原因行火から 損害約二千圓

今二十八日午前三時頃夏井丁山崎禺上スミ方から發火住居一棟及馬小屋物置を燒失同四時鎭火、原因平署で取調べの結果前夜八時頃から三女スミ子（一四）が就寢中アンカを蹴飛ばした結果と判明、損害見積り約二千圓

お披露目

むさし家から力彌が出現、盛に新女性的魅惑を發散してゐる

。。。。。

若者人を毆る

勿來町大字酒井字出藏二〇二階堂哲男方大日本炭鑛採炭夫茨城縣那珂郡平磯町磯崎生れ柴田正一（三四）は去る九日同町勿來館附近道路で同佐藤岩男を毆打し全治三週間を要する打撲傷を與へ此程何れも平區より略式で罰金二十圓を言渡さる

平署警官 捕賊表彰

平署左記警官は捕賊功勞により昨二十七日伊藤知事より金一封を添へ表彰された

安齋部長（竊盜鹽田淸美）柏木刑事（竊盜岡野竹夫、同草野儀市）大谷刑事（竊盜四家眞太郎、住居侵入未遂高橋喜代治、竊盜荒川、同鹽田）草野刑事（竊盜草野、四家、岡野）吉田巡查（竊盜荒川）林巡查（竊盜一村一郎）

。。。。。

鼠賊、餘罪續出

昨報―コソ泥を働き平署に擧げられた內鄕村白水廣瀨昇平（三〇）は取調べの結果去る廿四日湯本町昭和館の脇にあつた自轉車電燈を搔つ拂つたのを手初めに內鄕、平を股にかけ現金、雞卵、罐詰衣類などを窃取した事自白した

平青年團新年祈願

平靑年團では來元旦を第一回に每年元朝午前七時を期し縣社子鍬倉社頭に集合、國家隆昌團員健昌祈禱祭を行ふことになつた

給仕二名募集

十五六歲身体强健の者
自筆履歷書携帶希望者至急來談あれ

本社

喪中年末年始欠禮

花柳德三郎
杵屋十茂世
吉田久雄
平町紺屋町

舊十一月廿三日 土曜 甲戌 先負 開 胃宿 新十二月廿九日

諸判定總本部 東京市本鄕區湯島四丁目五番地 高島易斷總本部 神宮館

△一白の人 年末に押詰りての策動は控ゆるが安全第一△二黑の人 身心を靜かにして本業の發達に努むるが吉△三碧の人 萬事に自重を要す輕はずみは失財多大なり△四綠の人 小事にも過ちを生じ易し隱忍して時を待て△五黃の人 危地に臨み狼狽せず打開する心の餘裕あれ△六白の人 他を壓倒して進出するの勢あり但火難注意△七赤の人 氣運盛大にて永く繁榮の基を樹て得べき日△八白の人 營業に滿足せず他に計畫すれば失敗に終る△九紫の人 運途全盛の日活躍すれば益々功果偉大なり

舊十一月廿四日 日曜 乙亥 佛滅 閉 昴宿 新十二月三十日

△一白の人 堅實に物事を運べば大吉となる短慮は嚴戒△二黑の人 日頃の業務に精勵して他に望みなければ吉△三碧の人 精進力を强めて一事に勉むれば安全を保つ△四綠の人 氣運平靜なれど目上との間又は金錢上注意△五黃の人 前途塞りを生じて之が切開きに容易ならず△六白の人 窓氣あがらず不快に過ごすべき日病盜難注意△七赤の人 逆境に立ちすこぶる不安なる日文書の紛糾注意△八白の人 萬事不利に陷らんとする日本業とても注意△九紫の人 自己の本分とする所を盡せば平安無事の日

舊十一月廿五日 月曜 丙子 大安 建 畢宿 新十二月卅一日

△一白の人 總決算に當り思ひしより收益の擧がる吉日△二黑の人 短慮を愼しみ怒氣を戒め靜かに當日を送れ△三碧の人 計畫意外に進展し樂しき春を迎ふ準備成る△四綠の人 埋火も搔き起せば熱氣揚る氣を引立てよ△五黃の人 崩れに路を塞れたる如し急がず他に廻れ△六白の人 悲しみの中にも喜びの含まる日氣落するな△七赤の人 氣を締めて實ていに働けば思ひの外安心を得△八白の人 諸事熱心なれば案ぜしより功績の擧がる日△九紫の人 日頃の實直は衆人の好感に惠まれて發達す

二十九日
日出 六、五〇　月出 ―
日沒 四、三六　月沒 前一一、〇九
滿潮 前一〇、四〇 後一一、一五　干潮 前三、三〇 後五、二〇

三十日
日出 六、五〇　月出 前〇、二四
日沒 四、三六　月沒 前一一、三五
滿潮 前一一、二五　干潮 前四、二五 後六、四五

三十一日
日出 六、五〇　月出 前一、二五
日沒 四、三七　月沒 後〇、〇五
滿潮 前〇、〇五 後〇、一〇　干潮 前五、四〇 後八、〇五